

第3回
小山実稚恵
の
室内楽
新章

名手たちの響き合う魂の邂逅——
ブラームスの傑作デュオ、トリオ、クアルテット

ピアノ

ヴァイオリン

ヴィオラ

チェロ

小山実稚恵 矢部達哉 川本嘉子 宮田 大



12 / 2025
6 SAT

14:00開演

ヨハネス・ブラームス
Johannes Brahms

ヴィオラ・ソナタ 第2番 変ホ長調 Op.120-2
Viola Sonata No. 2 in E flat major, Op. 120, No. 2

ピアノ三重奏曲 第3番 ハ短調 Op.101
Piano Trio No. 3 in C minor, Op. 101

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 Op.25
Piano Quartet No. 1 in G minor, Op. 25

全席指定 S席¥5,500 A席¥4,500 B席¥3,500 U25¥1,500(25歳以下)

お申込み
お問合せ

◎トリトンアーツ TEL:03-3532-5702(平日11:00~17:00)
チケットデスク <https://triton-arts.net>

◎チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

※未就学児のご入場はご遠慮ください。※表示価格には消費税を含みます。
※やむを得ず、演奏曲目、曲順、出演者が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催：認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
協賛：第一生命保険株式会社

5月28日(水)11:00~
一般発売開始



第一生命ホール
(晴海トリトンスクエア内)



ご予約はこちらから

第3回 小山実稚恵 の 室内楽 新章

稀有な感性とテクニックで輝きを放つピアニスト小山実稚恵がプロデュースする「小山実稚恵の室内楽・新章」。尊敬し合う矢部達哉と宮田大との奇跡のトリオを軸におくる5年シリーズ、第3回のテーマはブラームスです。

第一生命ホールで共演を重ねた川本嘉子を迎えるブラームス最晩年のヴィオラ・ソナタ第2番は、知性と情緒が矛盾することなく同居するこのデュオの真骨頂。続くピアノ三重奏曲は、このトリオのために書かれたかのように評価の高い第1番をいったん寝かせ、今回は第3番に初挑戦、シリーズ第2回においてシューベルトのピアノ三重奏曲2曲でこれ以上ない世界を生み出した3人の新たなレパートリー誕生の予感、否、確信に期待が高まります。最後は若きブラームスの魅力あふれる傑作ピアノ四重奏曲で、4人の響き合う魂の邂逅が感じられるに違いありません。

これ以上望むべくもない名手たちによる傑作デュオ、トリオ、カルテットで、ブラームスの世界をご堪能いただければと思います。

今後の予定

- 第4回**
2026年
12月5日(土)
小山実稚恵(ピアノ) 矢部達哉(ヴァイオリン) 宮田大(チェロ)
ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第3番イ長調Op.69／ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調Op.47「クロイツェル」
ピアノ三重奏曲第7番変ロ長調「大公」Op.97
- 第5回**
2027年度
小山実稚恵(ピアノ) 矢部達哉／松浦奈々(ヴァイオリン) 川本嘉子(ヴィオラ) 宮田大(チェロ)
チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲 イ短調「ある偉大な芸術家の思い出のために」Op.50
ショスタコーヴィチ：ピアノ五重奏曲 ト短調Op.57



©Hiromichi Uchida

小山実稚恵(ピアノ)

Koyama Michie, piano

圧倒的存在感をもつ日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー、ショパン国際ピアノコンクール入賞以来、常に第一線で活躍し続けている。協奏曲のレパートリーは60曲を超え、国内外の主要オーケストラや指揮者からの信頼も厚く、数多くの演奏会にソリストとして指名されている。近年は室内楽にも力を入れている。2016年度 芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した「12年間・24回リサイタルシリーズ」や『ベートーヴェン、そして...』が、その演奏と企画性で高く評価。2022年からはサントリーホール・シリーズ、第1シーズン Concerto <以心伝心>を開催している。ショパン、チャイコフスキー、ロン＝ティボー、ミューンヘンなど、国際音楽コンクールの審査員も務める。東日本大震災以降は、被災地での演奏を続け、仙台では「こどもの夢ひろば」ポレロ」を開催。CDは、ソニーから33枚リリース。最新アルバム「モノローグ」まで7作連続して「レコード芸術」特選盤に選ばれた。著書として『点と魂』、平野昭氏との共著「ベートーヴェンとピアノ」を出版。2017年度、紫綬褒章受章。



©大塚道治

矢部達哉(ヴァイオリン)

Yabe Tatsuya, violin

洗練された美しい音色と深い音楽性によって、日本の楽壇のリーダーとして最も活躍しているヴァイオリニストの一人。桐朋学園ディプロマコース修了後、90年22歳の若さで東京都交響楽団のソロ・コンサートマスターに抜擢され現在に至る。97年、NHK「あぐり」のテーマ演奏で大きな反響を呼ぶ。室内楽、ソロでも活躍し、朝比奈隆、小澤征爾、若杉弘、フルネ、デブリースト、インバル、ベルティニ、A・ギルバート等の著名指揮者と共演。2009年、音楽の友4月号では、読者の選んだ「私の好きな国内オーケストラのコンサートマスター」で1位に選ばれ、2016年文藝春秋2月号で「日本を元気にする逸材125人」の一人に選ばれている。94年度第5回出光音楽賞、平成8年度村松賞、96年第1回ホテルオークラ音楽賞受賞。ソニークラシカル、オクタヴィア・レコード、キングレコードよりCDが発売されている。トリトン晴れた海のオーケストラコンサートマスター、毎年開催されている三島せせらぎ音楽祭アンサンブルメンバー代表。



©島崎陽子

川本嘉子(ヴィオラ)

Kawamoto Yoshiko, viola

1992年ジュネーヴ国際コンクール・ヴィオラ部門最高位(1位なしの2位)。96年村松賞、97年第7回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2015年東燃ゼネラル音楽賞・奨励賞受賞、ソリスト・室内楽奏者として最も活躍しているヴィオラ奏者の1人。京都アルティマ弦楽四重奏団、AOI・レジデンス・カルテットのメンバー。タングルウッド、マールボロ、ダボス、東京の夏、霧島音楽祭、サイトウキネン、小澤音楽塾、水戸室内管、アルゲリッチ音楽祭等に参加しアルゲリッチやバシュメットなどと共演し絶賛を博している。ジョン・ミンフンとの室内楽では日本・韓国公演も行なっている。1991年東京都交響楽団に入団。1999年より2002年退団まで首席奏者。2017年～21年までNHK交響楽団首席客演奏者を務める。ソリストとして、これまでにガリー・ベルティニ、ジャン・フルネ、ベクター・マークなどの著名な指揮者と共演。小澤音楽塾、愛知室内オーケストラでは弦楽器アドヴァイザーとして、後進の育成にも積極的な力を注いでいる。類稀なる表現力とテクニックで聴衆を魅了し、日本を代表するヴィオラ奏者の一人として常に第一線で活躍している。



宮田 大(チェロ)

Miyata Dai, cello

2009年、ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。トーマス・ダウスゴー指揮、BBCスコットティッシュ交響楽団との共演による「エルガー：チェロ協奏曲」の欧米盤が、欧州のクラシック界における権威のある賞の一つ「OPUS KLASSIK賞2021」を受賞するなど、海外からの評価も高まっている。スイスのジュネーヴ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。第一生命ホールで自身とチェロの可能性を追求する「宮田大Dai-versity」シリーズを実施中。桐朋学園大学特任教授、桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)非常勤講師、水戸室内楽管弦楽団団員、サイトウ・キネン・オーケストラアドバイザーを務める。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1698年製A.スラヴィヴァリウス“Cholmondeley”である。

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークとは

音楽活動を通じて地域社会に貢献する認定NPO法人です。東京都中央区晴海・トリトンスクエア内にある第一生命ホールを拠点とし、ホールの主催公演である芸術活動と、周辺地域を中心としたコミュニティ活動を2本の柱として、会員とサポーター(ボランティア)、寄付者の支えを受けて実施しています。

会場までのアクセス

- 都営大江戸線「勝どき」駅A2a出口 徒歩8分
- 有楽町線・都営大江戸線「月島」駅10番出口 徒歩15分
- 都営バス「都03」「都05」「東15」「錦13甲」系統 利用可
- 晴海トリトンスクエア内 有料駐車場あり